

CIR レポート令和6年11月号

岱廟について

国際交流員 はんれいれい 樊麗麗（中国）

皆さん、こんにちは！山口県国際交流員の樊麗麗です。今回は中国の泰山について紹介しました。今回は中国の山東省泰安市にある観光スポットの岱廟について紹介したいと思います。よろしくお願いします。



岱廟の正門

「岱廟」は通称を「泰廟」と言い、歴代皇帝が封禅の儀を行い、泰山神を祭るための専用の場所であり、皇帝行宮も兼ねています。主殿の「天祝殿」には泰山東岳大帝の神像を祭っていることから「東岳廟」「東岳神府」とも呼ばれています。岱廟は漢代に創建さ

れ、唐代に至って立派な殿閣が増築され、宋の真宗の封禅の時に大規模な増築がおこなわれました。南北405.7メートル、東西236.7メートルの長方形で、総面積は9万6000平方メートルです。岱廟は泰安市の北部に位置し、南は古泰城の南門で、北は岱頂南天門の中心軸線上に位置しています。廟の前には遥参亭、岱廟坊があり、廟内の中心軸線上には正陽門、配天門、仁安門、天貺殿、後寝宮、厚載門、雨花道院などがあります。四囲に高く巡らされた城壁、何重にも重なり合った宮殿などの岱廟の偉容は泰山の中で最大で最も整った古建築群です。宮殿建築様式が採用され、祠廟（先祖や先賢を祀る場所）建築の中で最も格式が高いです。岱廟と承徳の避暑山荘、曲阜の三孔（孔府・孔廟・孔林）、北京の故宮は「中国の四大古建築群」として世界文化遺産に登録され、世界的に有名な観光地でもあります。次は「遥参亭」について紹介します。

「遥参亭」は岱廟の前庭です。昔は皇帝が泰山を祀る前に、必ず先にここで簡単な参拝儀式を行い、ついで廟に入って神を祀ってから泰山に登ったことから「草参亭」と呼ばれていました。その後、泰山神へ崇敬の意を表すために現在の名称に改められた（「草」の字には「細かくない、大まかな」という意味があり、不敬の意が含まれている）。遥参亭は最初は門だけでしたが、後に亭を増やし、次第に拡張され比較的完備された小建築群になりました。南北の長さ66.2メートル、東西の幅52メートル、面積3442.4平方メートルです。建物の空間はそれほど大きくありませんが、全体の配置に非常にこだわりが見られます。周りは紅殻色の壁で、二つの中庭があり、南山門、本殿、配殿、后山門などからなっています。南山門の前に一つの石造りの坊門、つまり「遥参坊」があります。四柱三門式の坊門で清の乾隆三十五年（1770年）に建てられたものです。裏山門の東側には、日本の書家である柳田泰雲が書いた「李白遊泰山詩碑」があります。柳田泰雲（1902－1990年）、名は伊秀、号は泰雲で日本の書道家の家系に生まれました。柳田家は初代柳田正斎師に始まり、第二代泰麓師、第三代泰雲師、第四代泰山師と、およそ210年にわたって書道の伝統を受け継いできた稀な家系です。柳田泰雲は中国書道の研究に生涯を捧げ、きわめて造詣が深かったです。二十五歳で日本の書道史上初の「文部大臣賞」を受賞し、三十歳で文化使節として中国を訪れ書道交流をおこないました。柳田泰雲は「泰山は書道家の聖地であり、漢字は中国から伝来したものであり、書道家としてその恩を忘れてはならない」と考え、日本で中国書法の普及に尽力しました。同時に泰山文化に魅了され、三度も泰安を訪ねて泰山に登りました。そして、泰山に自分の書を刻みたいという宿願を達成しました。柳田泰雲が中国のために揮毫した文字が泰山に刻まれましたが、これにより彼は泰山に筆跡を残した唯一の日本人となりました。1990年に手書きの「李白遊泰山詩碑」と「国泰民安」がそれぞれ岱廟の遥



李白遊泰山詩碑

参亭と泰山頂上の丈人峰に刻まれました。書には中国への祝意がこめられています。また日本書道家としての中国文化と泰山への熱情も感じられます。柳田泰雲は泰山に敬意を表して、自分の息子に柳田泰山と名付けました。柳田泰山は厳父の教育と薫陶の下で書道の修行に打ち込み、今では優秀な書家として名を成しています。日本では、中国書道の普及教育に取り組み、中日両国の間で書道展覧会を何度も開催し、中日書道界の友好交流を促進するように努めています。

岱庙

岱俗称“泰庙”，是历代帝王举行封禅大典和祭拜泰山神的专用场所，并兼有帝王行宫之用。因主殿“天贶殿”内祀泰山神东岳大帝神像，又称“东岳庙”“东岳神府”。岱庙创建于汉代，至唐时已殿阁辉煌，宋真宗封禅时大加拓建。南北长405.7米，东西宽236.7米，呈长方形，总面积为9.6万平方米。岱庙位于泰安市城区北部，恰在南起旧泰城南门，北抵岱顶南天门的中轴线上。

庙前有遥参亭、岱庙坊，庙内轴线上贯穿着正阳门、配天门、仁安门、天贶殿、后寝宫、厚载门。东侧为汉柏院、东御座、东道院。西侧为唐槐院，雨花道院等。它城堞高筑，宫阙重叠，庙貌巍巍，是泰山最大、最完整的古建筑群，采用帝王宫城式建筑，在祠庙建筑中规格最高。岱庙与承德避暑山庄、曲阜三孔、北京故宫作为“中国四大古建筑群”均已列入世界文化遗产名录，同时也是世界著名的旅游胜地。接下来请让我介绍一下遥参亭。

遥参亭是岱庙的前庭，古时帝王祭祀泰山之前，必先于此进行简单的参拜，而后入庙祭神再登山，所以古称“草参亭”。后为表示对泰山神的崇敬之意而改为今称（因“草”字有不细致、粗枝大叶的意思，含有不敬之意）。遥参亭最初仅是一个门，后增亭，逐渐扩建成一座相对完整的小建筑群。南北长66.2米，东西宽52米，总面积为3442.4平方米。建筑空间并不大，但布局颇为讲究，周以红墙，二进院落，由南山门、正殿、配殿、后山门等组成。南山门前有一石坊即“遥参坊”，为四柱三门式，是清乾隆三十五年(1770年)建造。后山门内东侧有日本书法家柳田泰云所书的《李白登泰山诗碑》。柳田泰云(1902-1990年)，名伊秀，号泰云，出生于日本书法世家。柳田家始于第一代柳

田正斋，二代柳田泰麓先生、三代柳田泰云、四代柳田泰山，是拥有210多年书法历史的罕见家族。柳田泰云一生潜心研究中国书法，具有很深的造诣，二十五岁时获得日本书道史上第一个“文部大臣赏”的奖项。三十岁时作为文化使节来中国进行书法交流。柳田泰云认为，泰山是书法家的圣地，汉字来自中国，作为书法家，不应把这个恩忘掉。因此，他在日本大力推广中国书法，并对泰山文化心驰神往，曾三次访泰安，登泰山，把自己的书法刻在泰山石上是他的追求。此夙愿最终达成，柳田泰云为中国挥毫写下的文字被镌刻在泰山上。他成为泰山上唯一留下笔迹的日本人。1990年他手书的《李白登泰山诗碑》和《国泰民安》分别刻于岱庙遥参亭和泰山极顶丈人峰上。他的作品书写着对中国的祝福，也让人感受到作为日本书法家的柳田泰云对中国文化和泰山的热爱。此外，为了表示对泰山的敬仰，他为儿子取名为柳田泰山，并在其教育和熏陶下，潜心修炼书法，如今已成为一名优秀的书法家。在日本，从事中国书法的普及教学工作，并且在中日两国之间经常进行书法展览，努力促进中日书法界的友好交流。